RS FILLER

RS フィラー

防水形合成樹脂エマルション複層仕上げ塗料

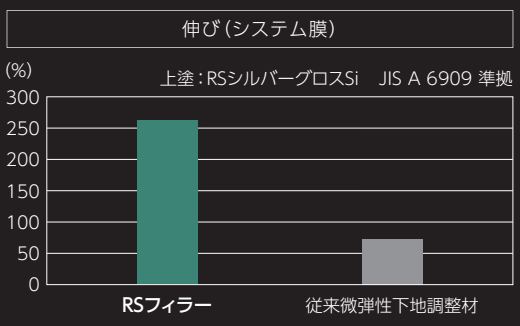
RS FILLER

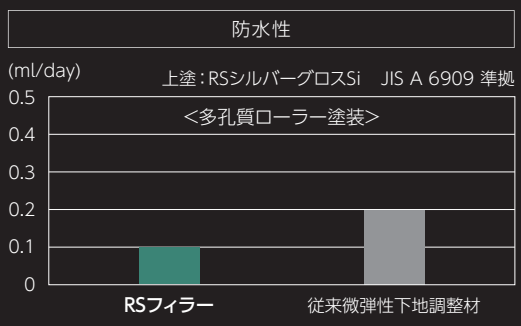
ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

「弾性」下地調整材

緻密な塗膜を形成することにより防水性能が向上します。





防カビ・防藻性

バイオ技術を駆使した薬剤を配合しており、塗膜全体で優れた防カビ・防藻性を持続させます。

優れた付着性

付着性に優れていますので、微弾性フィラー同様、旧塗膜へのシーラーレス塗装が可能です。

肌が緻密で高仕上り

微弾性フィラーに比べ隠ぺい性が良く、上塗の吸い込みが少ないため、仕上り性に優れています。

■ 塗装条件

塗装方法	多孔質ローラー
希釈率	1～4%
標準所要量（kg/㎡/回）	0.8～1.5
希釈剤	上水

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。
※標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

■ 塗装間隔

項目＼温度		23℃
標準塗装間隔	最短	8時間
	最長	7日
使用時限		ー

■ 主な適用素材

コンクリート・モルタル

■ 荷姿

RSフィラー：16kg

これまでに培った技術力を結集した

長期耐久性弾性下地調整材です。

施工上の注意事項

本注意事項及びにご使用になる上塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。

●塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風のない環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。
●絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
●可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
●蓄熱されやすい素材(軽量モルタル、ALC、高断熱型窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を用いた「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタッコ、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が膨れたり、剥離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。
●無機系樹脂、光触媒処理、ふっ素樹脂、シリコン樹脂など特殊な処理された素材には、適正がありませんので、塗装を避けてください。
●強溶剤系塗料を上塗するとチヂミ、シワ、リフティングが生じるおそれがあります。
●本品のカタログに記載されていない上塗を用いると経時で塗膜ワレ、ハガレが発生するおそれがあります。適用可能な上塗であることを十分確認のうえ決定してください。
●気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工は避けてください。
●屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。
●塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数等)や膜厚によって変わります。
●所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
●結露が発生する場所では、塗料中の微量の水溶性分が表面に溶出し粘着物となって析出することがあります。粘着物は水拭きや水洗で除去してください。
●塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異常が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおりる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
●塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。
●塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行なってください。
●旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねチヂミが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒しを行ない、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。
●吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が多く乾燥が遅くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、チヂミ、割れ、乾燥不良を起こすおそれがありますので注意してください。
●砂骨仕上げの場合、入り隅部や凹凸部の溜り部等で、塗膜表面に微割れが発生する場合があります。塗付量や希釈率の規定範囲を超えないようにしてください。
●旧塗膜の凹凸や巣穴の有無により所要量や仕上りが大きく変動しますので、必ず事前の試し塗りを行い確認後、本施工に入ってください。
●旧塗膜や下地の劣化状態によりシーラー塗装が必要な場合があります。密着性の確保や下地補強が必要な場合には「RSマルチシーラー」または「RSプライマー」をご使用ください。
●新設仕様の場合は、必ず下塗にシーラーを塗装してください。
●本品を塗装の際は、中塗や上塗に塗り残しや透けがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起こし層間で剥離が生じるおそれがあります。
●吸い込みのはげしい被塗物などの塗り替え時はシーラーを塗装後にガムテープで基材との密着性を確認し、ハガレが生じる部分は塗膜を剥離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。
●無機系樹脂、光触媒処理、ふっ素樹脂、シリコン樹脂など特殊な樹脂で処理された窯業系サイディングボード面に塗装する場合は、下塗材として「RSマルチシーラー」をご使用ください。なお、事前に試し塗りし付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒しを行ってください。
●新設建材が押出成形セメント板やGRC板の場合には、下塗に「RSマルチシーラー」をご使用ください。
●シーリング打設幅が広く、構造上大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので避けてください。
●シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、剥離、伸縮割れ、粘着などの不具合を発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性のあるノンプリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」「シープラ」「RSプライマー」を下塗とすることで、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などにより剥離、伸縮割れが起こることがあります。
●シーリング面は、塗膜が汚染・はく離・収縮割れを起こすことがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちとし、可塑剤(油分)を含まないノンプリードシーリング材をご使用ください。
●ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
●塗装方法により色相が変化する場合がありますので、一般部がローラー塗りの場合はできる限り入り隅まで入れてください。
●刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。
●水性塗料を塗装する場合の刷毛はナイロン刷毛を使用してください。獣毛刷毛は固まったりダマになりやすいので使用しないでください。
●被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗を入念に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗替え後の塗膜に膨れ、剥がれ、白化等の異常をきたす場合があります。水洗後にpH試験紙を用いて被塗面が中性になっていることを必ず確認してください。
●塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜剥離の原因となったり、光沢不足や色ムラが発生するなど異常を生じるおそれがあります。
●下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。
●改修時の既存塗膜の剥離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
●改修前に、漏水がみられる場合は、予め要因となっている箇所への防水処理を行ってください。
●新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下(ケット科学社製CH−2型で測定した場合)、又は表面含水率5%以下(ケット科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)まで十分乾燥させてください。
●水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥(含水率10%以下:ケット科学社製CH-2型で測定した場合)させた後に塗装してください。
●コンクリートの目違い、ジャンカ、コールドジョイント等は、樹脂入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、埃、エフロレッセンス、レイタンスなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。
●被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
●塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
●養生テープのとりは外しの際、厚膜材や弾性タイプの塗膜は切れにくいため、カッターナイフ等を用いて取り外してください。
●タイル洗浄薬剤が塗装面に付着した場合、塗装面の変色や早期劣化を生じることがありますので塗膜面の養生を行ってください。
●防カビ防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。
●塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
●規定範囲を超えて希釈すると、ハジキ・光沢低下・色味変化・ダレ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
●塗装用具などは、塗料が乾燥しないで固まらないうちに洗浄してください。水で落ちにくい場合、水性テクトセーフティ洗浄剤やラッカーシンナーを用いて洗浄してください(砂骨ローラーはラッカーシンナーで洗浄すると膨潤しますので、ご注意ください)。
●開館後、缶内に塗料が残ったまま放置すると、表面から水分が蒸発し皮張りや固化ブツが発生し、再度使用できなくなります。休憩時間など使用しない場合はポリエチレンシートで塗料表面を覆うなどし、対策をしてください。
●開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
●現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。
●塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。
●塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
●製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【予防策】
取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
本来の目的以外に使用しないこと。
指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
【対応】
目 に 入 っ た 場 合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落し、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
吸 入 し た 場 合:空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
【保管】
指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
【廃棄】
本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
【施工後の安全】
本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

リフォーム
サミット店
Supported by KANSAI PAINT

関西ペイント販売株式会社
関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

リフォームサミット
紹介動画はこちら

(24年04月01刷PKO) カタログNo.786